

# 町小だより

令和元年  
7月19日  
No. 637  
御免町小学校

## 自分を変えるチャンス

校長 藤井 聡

まもなく令和元年の1学期が終了いたします。様々なことがあり、多くの『学び』を得た1学期でした。長い夏休みを事故なく、安全に、そして健康に過ごしてくれることを祈っております。

保護者の皆様、地域の皆様には、教育活動に御理解と御支援を賜り、誠にありがとうございました。夏休み期間中も地域での様子などで気にかかることがございましたら、学校までお知らせいただければ幸いです。

人は、誰しも自分以外の誰かから、認められたい、評価されたいと願っています。それは、大人になっても同様です。ちょっとしたことでも、プラスの評価をもらえば嬉しいものですし、人知れずやっていたことを認めてもらえると、「こんなところまで見てくれたんだ。」と、温かい気持ちになります。そして、声をかけてくださった方と心がつながったような気持ちになります。

子どもたちも同じです。いや、大人以上に認められたい、褒められたいと願っています。静かにしない低学年の子どもたちに、「静かにしていて、いい子だねえ。」と声をかけます。すると、大半の子が、すっと静かになります。そして、ちょっとすまして、得意満面の表情になるのです。これがごく普通の姿です。

しかし、認められることや褒められることが少ない子どもたちは、ひねくれた表情を見せたり、わざと気に障る態度をとったりすることがあります。素直に自分を表現できなかつたり、大人の気を引きたかつたりするためにとる行動です。そして、その態度に腹を立て、さらに叱責を加える大人もいるわけです。悪循環のはじまりです。これでは、子どもたちは成長していきませんから、このような悪循環はどこかで断たなくてはなりません。つまり、新しい自分に生まれ変わるようなチャンスが必要なのです。

『自分を変える』——そんなに簡単に人の本質が変わるとは思いません。しかし、子どもたちには、「新しい自分」「自分が本当はなりたかった自分」になろうとする意志をもってほしいのです。そして、大人は、そんな子どもたちの意志を具現化していくチャンスを与え、支援していく必要があると思うのです。

夏休みは、自分の意思で生活を変えていくことができます。何かにじっくりと取り組んだり、普段はできないことに挑戦したりする絶好の機会です。こんなチャンスはなかなかありません。このことを意識し、『自分を変える』ことにチャレンジすることができれば、2学期からは、今まで以上にキラキラと輝く「新しい自分」に胸を張ることができるのです。